

まごころだより

2021年 10月号

”高齢者と子供たち“

まるで家族に甘えているように見える子供。はたから見ても微笑ましく、気持ちが和らぎます。間違いないのは、高齢者自身が嬉しく思われているのが分かります。普段の生活でひ孫くらいの児と同居されている方がどれだけおられるか分かりませんが、表情からは懐かしさで愛しんでおられるのが伝わってきます。子供たちにしても初めから馴染んだわけではありません。ある日突然、大勢のお年寄りを見掛ける事になって、混乱しているのが表情で分かりました。最初のうちは、距離をとっていましたが、近寄ってくるお年寄りには警戒もしていました。時間が経つにつれ徐々に顔や声を覚えてくれたのか、どのお年寄りにでもなついて甘えるようになりました。そうすると高齢者にしても可愛いのか、満面の笑みを浮かべて相手になってもらっています。



“お弁当の日”

今月はおこわ弁当にしました。おこわですが、少しだけ柔らかくしたものです。月に一度のお弁当の日も定着して、全ての利用者に行き渡るように曜日を変えて提供しています。いつもの昼食内容とは少し違って、楽しみの一つにしてもらえたら良いかなと毎回そう思いながら提供しています。

“お茶会”

お茶にしてもお菓子にしてもけっこう本格的なのです。お手前の様子なども、見てもらえるようにきちっとお出ししています。利用者の方はお手前の様子を見て段々と緊張していくのか、待っている時は一言もお喋りはされません。もっともぎざざわとした席のものではないでしょうが、たまには緊張した時間があってもいいのではないのでしょうか。作法は知らなくても、その時間とお茶の味を楽しんでもらえればいいのです。



9月になって、新型コロナ感染者が激減に向かいました。それがワクチン接種の効果なのかよくわかりませんが、みるみるうちに感染者数が下がっていきました。度重なる緊急事態宣言が出されましたが、そんなにも人流は減っていなかったようにも見えます。感染拡大をさせない取り組みは、ほとんどの人が守っていたのではないかと思います。繰り返される宣言や策に、たくさんの老若男女は閉塞感に苛まれて、何時までこうしていかなければならないのかと知らず知らずのうちに気持ちの緩みにつながっているという指摘もされたと思います。9月末日で全ての都道府県に宣言と策の解除がされましたが、完全に収束したわけではありません。いまでも多くの入院患者が戦っておられる現状を認識して、これからも感染拡大をさせないよう防止に取り組んでいくことが必要です。



